

2021年8月5日

世田谷区長 保坂展人 様

新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急申し入れ

日本共産党世田谷地区委員会
日本共産党世田谷区議団

新型コロナウイルスの感染急拡大は、多くの専門家が「爆発的な感染拡大に向かっている」と警鐘を鳴らす深刻な事態だ。東京での1日の新規感染者は4000人を超え、連日記録を更新している。

感染拡大に伴い、医療現場は医療崩壊の危機に直面しており、東京では救急要請したにも関わらず、現場に30分以上滞在した「救急搬送事例」が1.6倍となった。区内の自宅療養は約2500人になっている。

またこの間、世田谷保健所の業務増大は著しく、積極的疫学調査の対象を絞り感染者のいる同居者等に「重点化」する業務見直しが迫られる逼迫状況だ。

菅首相は「人流は減少している」、東京五輪中止の選択肢は「ない」と断言するなど、国民に行動抑制を求めながら、五輪開催に固執し、矛盾したメッセージを発し続けている。これらが、国民と危機感を共有できない最大の要因であり、わが党は重ねて五輪中止を強く求めるものだ。

こうしたなか、政府はコロナ患者の「原則入院」から「重症患者などを除き原則自宅療養」へ方針転換を行った。

命の切り捨て、選別につながる方針転換に、国会では、日本共産党・立憲民主党・国民民主党が入院制限撤回で一致、与党からも撤回の声が上がっている。区としても、方針転換撤回及び必要な入院体制の確保及び療養施設の拡充・24時間での看護体制の強化を求めている。

感染拡大を抑えるために必要なことは、ワクチン接種と大規模なPCR検査をセットで行い封じ込めをはかる、自粛要請とセットで十分な補償を行う、疲弊する医療機関に対する減収補てんや医療従事者への支援を行うことだ。

特に緊急に必要なのは、大規模検査の拡充だ。区長は昨年「いつでも、どこでも、何度でも」とPCR検査拡充を提唱し、社会的検査を全国に先駆けて実施し、高齢者施設での感染抑止の効果を上げてきた。当初の区長の提唱通り、これをさらに発展させ、広く区民が、職場、学校、地域のどこでも直ちに検査できる体制強化が必要だ。

区民の命を守り、危機感を区民と共有するために、コロナ対策の更なる強化と保坂区長のリーダーシップ発揮を求め、以下申し入れる。

1、オリンピック・パラリンピックの中止を政府・東京都に求めること。

2、ワクチンについて

・職域・学内接種を活用し、希望者への迅速なワクチン接種を実施すること。楽天による接種再開を急ぎ、今後の見通しを示すこと。

・区による集団接種・かかりつけ医の個別接種予約の早期再開を行うこと。